

## 家庭や地域とのふれあいの中で、自尊感情を高める

# ねがい

### 〈 目的 〉

規範意識の高揚や自尊感情をはぐくむために、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちに挨拶や言葉遣いの大切さを学ばせたり、異学年や異校種間交流によってあこがれや役立ち感を味わわせたりする活動を取り入れることとしました。

### 〈 内容 〉

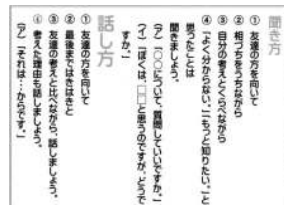
# つながり

#### ● 地域の中で地域の子どもを育てる（保・幼・小・中を通した取組）

子どもの自尊感情を高めるためには、賞賛や励ましなどの温かい言葉かけが欠かせません。私たちは、まんのう町教育研究所が主催する「生活力向上プログラム」にて、「かけられると元気ややる気の出る言葉・うれしくなる言葉・優しい気持ちになる言葉」などを検討してきました。その取組において、家庭や地域の方々に日常の挨拶や温かい言葉を子どもたちにかけていただくことを目的としたポスターやチラシを作成したり、行政告知放送で町民の方々にお知らせしたりしました。子どもたちを健やかにはぐくむためには、まずは大人や地域の働きかけが大切だと考えます。この取組を通して子どもたちに地域とのつながりを意識させ、社会性をはぐくむことにしました。



【作成した啓発ポスター】



【満濃中学校区の各小学校で、取り組んでいる挨拶や賞賛を大切にした異学年交流や日常の生活の様子】

#### ● 小中の児童会・生徒会による交流活動

毎年、中学校の生徒代表数名が母校の小学校を訪問し、後輩たちに中学校の行事やきまりについて説明する機会を設けています。この活動を通じて入学前の児童に中学校生活への期待や備えの意識を持たせようとしています。



#### ● 中学生ボランティアによる登校の見守り

毎月2回、朝の登校時に中学生が町内数か所の交差点で、地域の方々と一緒に交通立哨をしています。中学生は小学生の安全な登校を見守ると同時に、整然と集団登校する小学生から自らの交通マナーや安全意識について振り返っています。

【元気な挨拶も大切な要素】

# 高まり

### 〈 成果 〉

各校の実践の目的を明確にし、互いに共有することにより、子どもたちの発達段階や環境に応じた横（小小連携）と縦（小中連携）の指導体制が整いつつあります。特に、挨拶や温かい言葉かけを、それぞれの学校から同一歩調で家庭や地域の方々に働きかけることで、登下校時の子どもたちの挨拶も少しずつ変わってきたように思います。これらをきっかけとして、今後は地域の方々から挨拶や言葉かけの大切さを発信していただけるよう、さらに協力を求めています。